

宮崎県立飯野高等学校

令和4年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」報告書



目次

1. 事業推進に向けた取り組み

- (1)事業実施日程
- (2)運営指導委員会
- (3) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制
 - ①飯野高等学校を守り育てる市民の会
 - ②魅力化コアチーム委員会
 - ③事務局

2 研究開発

- (1)本校ならではの新学科におけるコンセプト
- (2)新学科設置の背景・目的・目標
- (3)新探究科目に向けた成果の継承と学びのアップデート
 - ①プロジェクト型学習
 - ②自分の枠を“越境”する学び
 - ③“超探究の日”（1日探究×学期2回、夏季1週間）の実施
 - ④デザイン思考による実践教育により創造力を育成
 - ⑤ITスキルの育成
 - ⑥学年が混在したプロジェクト活動の実施
- (4)企業との意見交換・協
- (5)連携機関・団体との意見交換・協議
- (6)他の学びへの接続・学びの往還
- (7)学びの往還に向けた調査・実践
 - ①情報創造力
 - ②批判的思考力
 - ③問題解決力
 - ④コミュニケーション力
 - ⑤プロジェクト力
 - ⑥ICT 活用力
 - ⑦授業外での活動

3 生徒アンケート結果

4 視察・事業の普及

1. 事業推進に向けた取り組み

(1)事業実施日程

事業項目	実 施 日 程		
	月	月	月
管理機関との協議	4月27日	10月19日	1月26日
	2月20日		
コンソーシアムとの連携	7月25日 1月26日 2月6日	8月25日 2月6日 2月20日	8月26日 10月19日 2月17日
連携団体との協議・研修	4月21日 5月23日 5月30日 6月21日 9月25日 11月9日	4月26日 5月26日 6月13日 9月23日 10月25日 11月12日	5月16日 5月27日 6月21日 9月24日 11月3日 11月13日
連携企業との協議	4月28日	5月24日	8月4日
カリキュラム開発	5月27日 7月12日 10月19日 11月16日 12月16日 1月16日 1月22日 1月28日	6月21日 7月14日 10月20日 11月18日 12月20日 1月20日 1月24日 2月1日	6月22日 10月18日 11月11日 12月6日 1月13日 1月21日 1月27日 2月14日
文科省研修会	11月10日	3月10日	3月11日
視察・研修	4月25日	11月14日	11月28日
視察受入	6月20日 10月25日 1月19日 1月22日	6月29日 11月1日 1月20日 1月26日	7月25日 11月25日 1月21日 2月16日
事業の普及	7月6日 11月24日	8月11日 11月28日	10月7日

(2)運営指導委員会

日時 令和5年2月20日(月)午前10時～午前11時30分
会場 飯野高等学校 校長室

運営指導委員			
えびの電子工業株式会社社長		津曲洋一	
明石酒造株式会社社長		明石秀人	
宮崎国際大学副学長		矢野健二	
株式会社アイロード社長		福永栄子	
財団法人こゆ地域づくり推進機構教育イノベーション推進専門官		中山隆	
指定校			
校長	間曾妙子	教頭	谷口智則
事務長	小玉雅一	指導教諭	梅北 瑞輝
管理機関			
宮崎県教育庁高校教育課 副主幹		岩崎 晃裕	
宮崎県教育庁高校教育課 指導主事		肥田木 洋之	

概要
本事業の円滑な運営を図るため、管理機関や指定校担当者から本年度の取組計画、実施内容等説明を行ない、その後、委員から専門的見地から指導、助言をもらった。概要は以下のとおりであるが今年度の振り返りをするとともに次年度の計画策定にむけた貴重な機会となった。
委員からの指導・助言
<ul style="list-style-type: none">・大きな挑戦であるから成功させてほしい。そのために県教委と学科、科目について探ってほしい。・説明にあったようにキャリアにつなげることは大事である。・教員にかかっている。みんなで巻き込んでいけると大事。カリキュラムが大事である。・どの観点からも話ができています。・学科の構想や新科目でつけたい力など言葉の使い方をよりうまく整理してもらえるとよい。現状だと聞き手によってイメージが変わってくる可能性がある。・地域とのつながりが強いが上に今回の事業ができると感じている。・飯野高校だからできることだと思うが、今後のことも見据えて、5年後くらいにどこかでリバランスをかけなくてはいけないと思う。・育てたい人材を 学校 と 地域 でどう分担するかが必要である。・地域から飯野高生を引っ張っていくカリキュラムという視点も必要ではないか。

(3) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制

本事業においては、以下の①～③の組織を柱に連携・協力体制をつくっている。構築にあたっては、関係機関や地域の事業主などを①、②の構成員に入れ円滑に整備が進むようにした。また、体制構築後の事業推進の要として新たにコーディネーターを設置した。事業初年度が年度途中のスタートということもあり、人材確保が難しく 11～1月の配置となったが次年度は、年間を通しての人材確保が見込まれている。

①飯野高等学校を守り育てる市民の会

日時 令和5年7月25日(月) 午前10時～午前11時30分
会場 飯野高等学校 大会議室

本校支援のための地域を中心としたコンソーシアムで、えびの市長を会長に地元の行政、事業者、団体、関係機関から構成されている。地域のネットワークの中核となる団体や人材が集う組織となっていることから、事業内容(カリキュラム内容)に関する提案等を行い、事業への協力要請を行うことができた。特に、コーディネーターの持続的な配置や本校支援事業について本事業が円滑に進んでいくよう確認がなされた。

コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績	
えびの市	市長 村岡 隆明	R1～3 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業コンソーシアムの構成員	
えびの市議会	議長 竹中 雪宏		
飯野高等学校同窓会	会長 宮浦 佳紀		
えびの市教育委員会	教育長 永山 新一		
えびの市自治会連合会	会長 平岡 哲朗		
えびの市農業協同組合	組合長 小吹 敏博		R4 年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業(普通科改革支援事業)」コンソーシアムの構成員
えびの市商工会	会長 白石 昌彦		
えびの市観光協会	会長 福元 英雄		
えびの市地域婦人連絡協議会	会長 上原 聖		
えびの市子ども育成連絡協議会	会長 築地 雅之		
えびの市スポーツ協会	会長 赤川 一郎		
えびの市社会福祉協議会	会長 瀬戸崎恵子		
えびの市民生委員児童委員協議会	会長 上野 憲昭		
えびの市教育・保育施設園長会	代表 友清 潤		
えびの市青少年育成市民会議	会長 村岡 隆明		
えびの市高齢者クラブ連合会	会長 木野 幸典		
飯野高等学校 P T A	会長 有馬 定治		
えびの市中学校校長会	会長 日高 康州		
宮崎県議会	議長 中野 一則		
えびの市 P T A 連絡協議会	会長 中野 岳則		

②魅力化コアチーム委員会

飯野高等学校を守り育てる会（コンソーシアム）内に置き、高等学校教員、コーディネーター、地元事業者等で構成する。学校設定科目の「共創」のカリキュラム開発の中心になる組織とする。

委員		
飯野高等学校魅力化校内推進委員会	指導教諭 梅北 瑞輝	R1～3 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業 コンソーシアムの構成員
VoiceGift Lilybell 代表	代表 遠目塚 文美	
えびの市青年会議所	理事長 大門 哲也	
明石酒造株式会社	常務 明石 太暢	
NPO法人ニシモロベース	代表理事 上水流 秀明	R4 年度「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」コンソーシアムの構成員
PACHAMAMA	代表 鈴木 尚洋	
えびの市企画課	課長 黒松 裕貴	
HANNAH	代表 村上 大輔	
(株)BEBUYA	代表 坂元一貴	
株式会社 BRIDGE the gap.	代表取締役 青野雄介	

会および開催日	内容
第1回魅力化コアチーム委員会 10月19日（水）	<p>第1回は、今年度からの事業名変更と普通科改革事業の説明と前年度で打合せしていた内容の振り返りを行い、その後フリーの対話（当日に実施されたキャリア教育のジョブシャドウイングの内容も含む）で様々な視点での話が委員から出された。概要は以下の通りで第2回以降の協議テーマとして、課題をどのようにカリキュラムに落とし込んでいくかを次回に考えていくことが確認された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① コロナ禍で前事業の後半2年間は校外での活動（特にリアルな体験）に制限が掛かっていた。今後は制限を取り外して活動出来る事に期待したい。 ② ジョブシャドウイングではステレオタイプの背中ではない人生を見せられたという観点から一定の効果があったと想定される。 ③ 産官学連携という観点で高校と一緒に地域が育つという考え方もある。何かしら地域の企業側にも本取り組みへのメリットなどを示したい。 ④ 現状は地域の大人は「待ち」の状況で、それを変化させる理由を考えていく必要があるが、なかなか難問。 ⑤ 地域のイベントは高齢化が進んでおり、高校生が入ってアイデアをくれるだけで新鮮なイベントになる。地域のイベントのノウハウ等の承継にも繋がる。 ⑥ 魅力化コアチームのメンバーは、一人一人が尖っているメンバーなので、普遍的な人材の採用という点がメリットとして少ない難点がある。 ⑦ 魅力化コアチームメンバーは尖った事業主が多いので、積極的に生徒と関わることで、地元で楽しそうに働く大人の存在を知ってもらい、将来的な

	<p>Uターン等に繋がる可能性が高い。</p> <p>⑧ 全学科の生徒が交流の対象だと、生徒の質も変わってくるので、精鋭を絞って交流を図る方が効果的と思われる。</p> <p>⑨ 地域の企業は大企業と異なり、開発などの専任人材が少ないという課題がある。高校生の中でも優秀なメンバーがかなりの長期間で一緒に経営課題の解決に取り組むというのであれば、何か生まれてくるものがあるかもしれない。</p> <p>⑩ 既存事業だと様々なリスクが発生するので、新規事業創出やR&D等の部分で本気で企画を考えてくれるなら、企業側にもメリットが大きい。</p> <p>⑪ 生徒個人の将来に繋がる活動でないといけないという目線は忘れてはならない。</p> <p>⑫ 他の町ではイベントが行われるたびに高校が参加する町がある。高校が参加しないとイベントが成り立たないので、当該高校の生徒もイベントごとに達成感や重用されている感覚で自己肯定感を上げている。えびの市でも同様の取り組みをしていく事が出来ないか。</p> <p>⑬ 現状の飯野高校はマッチング制度で企業側から持ち込まれる話で断っている内容も多い。その理由は生徒個々の意欲の差なので、その辺りをスイッチ入れていける仕組みが欲しい。</p> <p>⑭ 飯野高校は現時点で様々な事に取り組める幅を備えている。今後は深く探究できる縦の伸びしろを作っていく。</p> <p>⑮ 今回の普通科改革事業の中で、魅力化コアチームの事業者と上手くマッチングする生徒が出てくれば、大きく縦に伸ばすような探究をするのも一つの目標としたい。</p> <p>⑯ 何歳で何に出会うかで生徒の人生が変わると思うので、今まで通りの横幅を死守していく事はマスト事項。</p>
<p>第2回魅力化コアチーム委員会 2月6日(月)</p>	<p>第2回は、新学科の学びの設計書を用いて普通科改革事業の構想の説明と、前回議事からの送り事項の確認を実施した。</p> <p>概要は以下の通りで第3回以降の協議テーマとして、課題をどのようにカリキュラムに落とし込んでいくかを次回に考えていくことが確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・超交流の日等の実施形態は？グループ or 個人の取り組みなのか？ →グループか個人で実施するかの方法は、TPOに応じて形に応じて考える。 ・従来の活動はアイデアが好き勝手に子供たちの自走心の方が多かった。 今後は地域との協働を正式に決定してから、実施する想定か？ →TPOに応じて考えている。過去のを否定するわけではない。 ・探究活動の実施日はカリキュラム的に学校側が日にち指定をするのか？ 地域の事業者側の日程に合わせる事は出来ないか？ 事業者としては、もっと通達の時間が前もっていれば質は上がる。

またもっとフレキシブルな形を希望している。

- ・新カリキュラムとして実施していく場合、従来よりも活動する学生数が増えるが、地域側の事業者の数がついていけるのか、人力的な部分のリソースが心配。
 - ・学生にとっては好奇心を持ち、活動に没頭できる日があるのは良い事。
 - ・事業者側の理想像はあるが、学校のカリキュラムに合わせる事が、現実解だと思う。事業者側が伝えるなどの工夫をしていく。
 - ・考え抜く力、生み出す力にフォーカスして伸ばしていく優先順位がよい。
- 高校としては、考えるだけではなく、一步踏み出す力というのも大事にしている。
- ・生徒のアウトプットの中で、アドバイス先は先生か親という状況の中で、魅力化コアチームのメンバーは第三の選択肢となりえる。もう少し生徒の個々の状況に関して、深く把握しておきたいという思いがある。
 - ・生徒の個々人の資質や特技は小さなことで構わない。目立った力による社会貢献も大事だが、役割を正確に果たす力というのも大事。優秀なクリエイターだけではなく、地元で足場を固める人間に光を当てる事も大事。生徒が得意としている事を褒めてあげるといような活動も生徒には有意義。
 - ・みらい留学の生徒達は、地域の大人のサポートがない状況なので、意識的にフォローしてあげる事が必要。ポジティブな子ばかりではない。ネガティブシンキングの生徒に対して、フォローアップしてあげる必要がある。
 - ・興味のある事に対して、小さな一步で良いのではないか。その自己肯定感で今後の人生に大きな一步となる。
 - ・探究活動の際にグループで来るときに、一人の子がメインになっていて、メインの子以外の方はサポート役になってしまうことがある。全員が一人称で取り組むことができる仕組みがあることが望ましい。
 - ・思考速度の違いが踏み出す力に大きく影響をしてしまう可能性がある。個人の思考速度という個性をストレスに感じてしまう事がある。プレゼンのフォーマットを準備してあげるなど、生徒を助けてあげる事で成功体験を与えるなどの高校側の配慮が欲しい。
 - ・超一流の日はテーマ設定により、取り組み内容として大きく変わる印象。
 - ・運用方法によっては、生徒の個性を引き出す力になるのではないか？
 - ・「逆コンサル」新たな視点が身に着けられる可能性がある。
 - ・高校生の個人差が大きい。思考を纏める速度がだいぶ異なる。
 - ・「逆コンサル」の話は、事業者側に需要があるかが焦点。
調査探究の部分であれば、高校生は協力的なので成果があるかもしれない。
 - ・意見を聞く役割として「高校生」に価値が見出せるかもしれない。
 - ・生徒の育成という意味合いで、これからの人材採用という観点から、協力しても良いと思う。新しい気づきがあるかもしれない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒達の探究活動に Phase を合わせて、企業側が探究の課題を伸ばす。 ・公的機関へのコンサルであれば、小林市で秀峰高校がシムシティ部をやっている、そんなレベル感の話で良いのではないかな？ ・県教育委員会としては、新学科設置がマストではなく、新学科設置に向けた研究をこの場でしている認識である。 ・魅力化コアチームの面々には生徒の育成を重要視する観点に感謝している。 ・第3回は教科の学びと探究活動の学びの接続である「学びの往還」に関してもう少し詳細の意見を聞きたいと考えている。
--	--

③事務局

事務局では、事業における研究開発全般のマネジメントを担う組織として教員およびコーディネーターで毎週のミーティングを行った。新学科、新科目開設に向けた今年度版の学びの設計書を完成に向けて、アンケート調査の実施・分析、各種取組の原案提示、事業全般の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を行った。

ミーティング内容
<p>Goal: 2023 年度に具現化するための取組みを施行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究と教科をつなげる ・取組みや、地域探究への落とし込みを行う→学科のコンセプト ・流れ <ol style="list-style-type: none"> 1) ブレスト →カテゴライズ 2) カテゴリーごとの整理 3) 整理した内容を項目に合わせて検討 4) アウトプット作成 <p>教科会へのアンケート作成 イノベーションの区分→ アンケートとしては「イノベーションを培うためのスキルとして」</p> <p>新科目のカリキュラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生徒たちの探究活動の取組みにおいて <ul style="list-style-type: none"> → 学校(地域)の設備、インフラの自由アクセス度を認める → 学校の制度・文化を変える→高校生のワクワクに変わる ・自由と保障(何度やってもいい、失敗してもいいというマインド) ・リソース(地域も)、文化、資金・インフラ・人 <ul style="list-style-type: none"> → ファンドプール(補助金、寄付)が必要ではないか ・事業を興すマインド”を培う 生徒たちの活動への取り入れ方→ 探究活動に入れていくことで起業家マインドも含んで育成(ビジネスとして)「自分たちがやったらどうなるか」の想像、周囲の助言 ・これまでの取組み、プログラムを体系化した整理

年次スケジュールとスキルの体系立て完成→ベース完成

コーディネーターの配置および活動内容

配置については、年度途中からということもあり、当初の予定者から変更となった。また配置できた期間も11～1月の3か月ほどであった。この状況を踏まえ、次年度に向けた準備を早期より進めた結果、次年度は2名のコーディネーターの配置を予定している。以下は、今年度のコーディネーターの活動内容である。

- ・カリキュラム開発に係る調査・分析
- ・カリキュラム開発に係るコンテンツの設計
- ・共創サポーターとの意見交換
- ・魅力化コアチーム委員会の運営
- ・探究活動の支援

(農家との商品開発プロジェクト、温泉郷女将会との商品開発プロジェクト)

2 研究開発

(1)本校ならではの新学科におけるコンセプト

本校は創立以来、地域人材の育成が学校としてのミッションであることから、以下をふまえた地域社会学科の設置を目指す。

- ①地域社会が抱える諸課題に対応した学びを行う学科
- ②地域、社会の将来を担う人材育成の役割を担う学科
- ③地域社会の課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びを行う学科

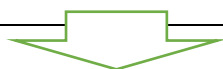
また、多様なニーズが求められる社会において生徒の能力・適性や興味・関心等の実態を踏まえた学びの実現をしていくためにも生徒や地域の実情に応じた特色・魅力ある教育を実現することが重要である。新学科では、新たに開設する探究科目を軸に、生徒が社会の持続的発展に貢献するための資質・能力を育成し、地域と共学、共育する多様な分野の学びを実現する。

新学科では、新たに開設する学校設定科目「グローバル共創探究」を柱に、地域社会の課題や魅力という生の素材を扱い、リアリティのある学びの中で、主体的に探究していくことを重視する。また、地域にフォーカスするからこそ、物事を俯瞰してみる力を養うため地域外（国内、海外）からの視点を重視した学びも、併せて進めていく。これにより、課題解決のためのアクティビティを学ぶとともに、各教科の学びにおいても自ら学びを取りにいく力を身につけることを目的とする。加えて、これまでにない学びを構築していく中で、生徒と大人（地域、教員）が共に学びながら、共に創造し発展させていく学科とする。これは、地域社会学科を設置する目的でもある地域、社会の持続的発展に貢献するための資質・能力の育成に向け、地域と共学、共育する多様な学びを実現し、地域において新たな価値を創造する「コトづくり」を重視する学びへの質的な転換に資するものである。

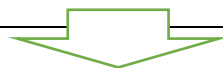
(2)新学科設置の背景・目的・目標

背景

- ・ AI の発達によるシンギュラリティや Society5.0、目前に迫った 2025 年問題といわれる超高齢社会の到来など
- ・ VUCA と呼ばれる予測不可能な時代が到来
- ・ えびの市の総人口は減少を続け、高齢化が急速に進む
- ・ 都市機能維持観点から、若い世代を中心とした人口流出の社会減を抑制
- ・ 多様なニーズが求められる社会において生徒の能力・適性や興味・関心等の実態を踏まえた学びを実現する必要性



- ・ 地域との協働による高校教育改革推進事業において探究型学習による一定の成果
- ・ 地域にフォーカスして、物事を俯瞰してみる力を養うため地域外（国内、海外）からの視点を重視した学びの必要性
- ・ 課題解決のためのアクティビティや各教科の学びにおいて、自ら学び取りにいくマインドと力の必要性



地域、社会の持続的発展に貢献するための資質・能力の育成に向け、地域と共学、共育する多様な学びを実現。地域において新たな価値を創造する「コトづくり」を重視する学びへの質的な転換

新学科設立の目的

- ・ 今後の知識基盤社会において、常に新たな価値を創出し続け、持続可能な地域創生を担う人材となるような教育活動を展開
- ・ AI では生み出せない人間ならではの思考力や判断力、想像力を身につけさせ、人間ならではの豊かな力を養う。

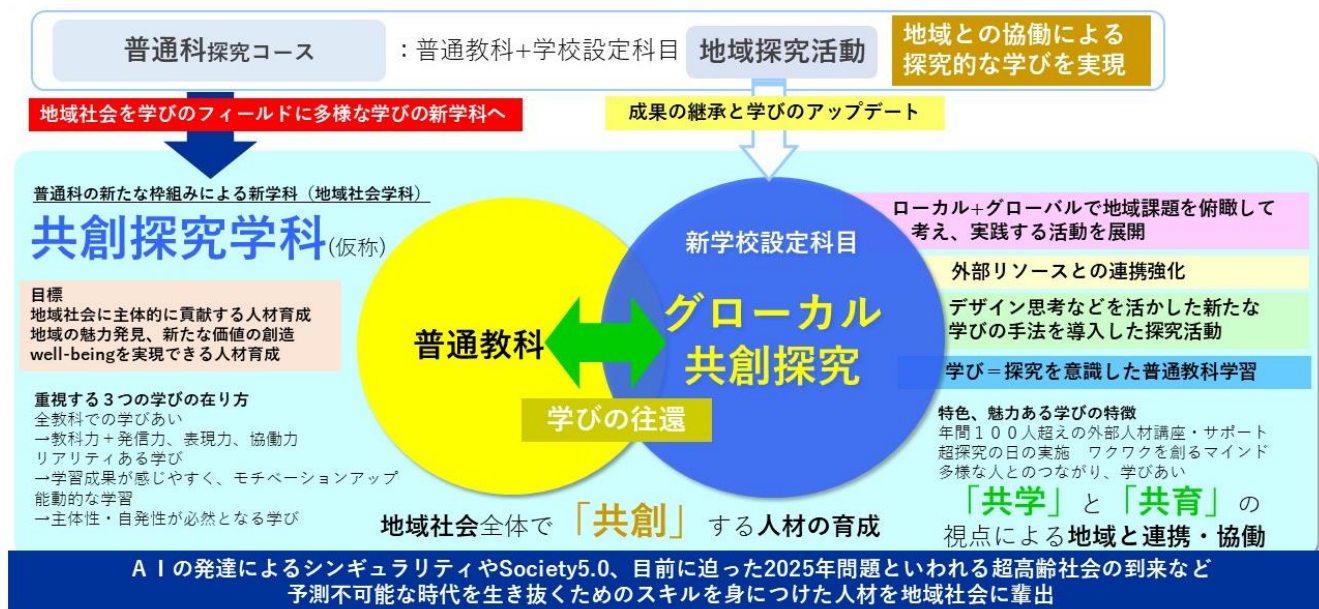
- ・ 地域社会が抱える諸課題に対応した学びを行う
- ・ 地域、社会の将来を担う人材育成の役割を担う
- ・ 地域社会の課題や魅力に着目した実践的な特色・魅力ある学びを行う
- ・ 地域と共学、共育する多様な分野の学びを実現

目標

生徒が、地域及び社会に対する理解を深め、主体的な地域及び社会の創り手として参画するために必要な以下の力を身につけるとした。

イノベーション力＝情報創造力・批判的思考力・問題解決力・コミュニケーション力・プロジェクト力・ICT活用力

また、新学科の具現化に向けては地域協働事業で研究開発を進めた普通科探究コースの取り組みをベースとして地域社会を学びのフィールドに多様な学びの新学科にしていくとともに、新たに設置する新科目においてもこれまでの成果の継承と学びのアップデートさせていくものを目指すとした。



また、新科目の設置により地域協働事業では実現には至らなかった教科学習との学びの往還も新学科の学びにおいて実現させていくとした。その実現のため、下記3校の視察研修を行った。

【宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校】

グローバルな視点による総合探究の取り組みについて担当者から話を聞き、教科との接続や評価について意見交換を行った。低学年段階からの地域との共創した探究やグローバルな視点で取り組んだ成果について学ぶことができ新科目のカリキュラムにおける参考となった。

【京都市立開建高等学校】

開建高等学校は、令和5年4月に開校予定の高校である。その特徴は以下である。

○学びの方法が変わる～「先生が教える」学校から「生徒が学ぶ」学校へ～

決められたことを決められたとおりに答える力ではなく、知らないことや課題に対して、自分なりの問いを立て、自分なりの方法で答えを探っていく。教科・科目の授業においても、生徒のそのような「学びたい」という意欲をかき立てる探究的な学習を行う。

○学びの支援が変わる

教員は、探究的な学習の伴走者となり、生徒の問いを引き出す役割を担います。

1つのL-podでの活動は複数の教員で指導し、生徒を多面的にサポートし、生徒一人ひとりに応じた学びを支援する。

○学びの形が変わる ～ラーニングポッド（通称 L-pod）～

教室のサイズ・形態を自在に変化・転換し、授業の目的や活動内容によって、多様な学習活動を展開する。教室 4 つ分の広さのスペースで 80～90 人の生徒が学ぶ。可動式ホワイトボード壁を使用し、意見やアイデアを書くなど自由な発想を楽しむことができる。

○社会と関わり、学びを実践

総合的な探究の時間を 1～3 年生の学年縦断での活動とし、京都をフィールドとした探究活動を展開する。

○課外プログラム

地域や大学生と一緒にを行う探究や、ボランティアなど。

以上、京都市をフィールドにした探究と教科の接続を図り、6 つの資質・能力を養うことを目標に前進となる塔南高校で実践と検証が進められていた。印象的だったのは全教科で教員 3 人が授業を協働して創ることを実践しており、教員自身が探究していることだった。また、新たに取り組む探究学習では U 3 5 とよばれる若手起業家との連携をはじめ上場企業とのプロジェクトも計画されており本校の取り組みを考える上でも非常に参考になるものであった。

【北海道大空高等学校】

道立の 2 校が統合し、町立高校として令和 3 年に開校した総合学科の高校。生徒の主体性、自走を引き出す取り組みとして校則に細かな規定をせず考えさせること、定期テストを廃止し単元テストを実施など様々な仕掛けを校長中心に取り組んでいる。また、授業においてはスタディサプリやキュビナなどのツールを生徒が選択して取り組むなど個別最適な学習活動が行われていた。町立ということもあり、町をフィールドにした探究的な学びも進んでおり参考となった。

(3)新探究科目に向けた成果の継承と学びのアップデート

学校設定科目「グローバル共創探究（仮称）」では、地域社会の課題や魅力というリアリティに触れ、主体的に探究していくことを重視する。これは、共創探究学科（仮称）を設置する目的でもある地域、社会の持続的発展に貢献するための資質・能力の育成に向け、地域と共学、共育する多様な学びの実現し、地域に新たな価値である「コトづくり」を重視する学びへの転換に資するものである。

この他、域内の視点に捉われず物事を俯瞰してみる力を養うため地域外（国内、海外）にも積極的に触れる学びを進めていく。また、これまで実践してきた「地域探究活動」をさらに発展させ外部リソースとの連携を強化し、デザイン思考などの新たな学びの手法の導入、グローバルな視点での活動を重視した科目に発展させる。

まず、学びの土壌として、この科目に関わるすべての人を学習者と位置づけ、答えのない問から生徒、大人（教員も含）がフラットに学びあう「共学」を基本とする。関わる大人は「共育」の視点で高校、地域、企業、行政等が連携・協働して地域社会全体で「共創」する科目とする。

①プロジェクト型学習

・本科目では、これまでも学校設定科目「地域探究活動」で取り組んできた Project Based Learning (PBL) を基本とし、地域（社会）というリアリティに触れながら、複雑な問や課題について調査し、自ら立ち上げたプロジェクトで実践する。

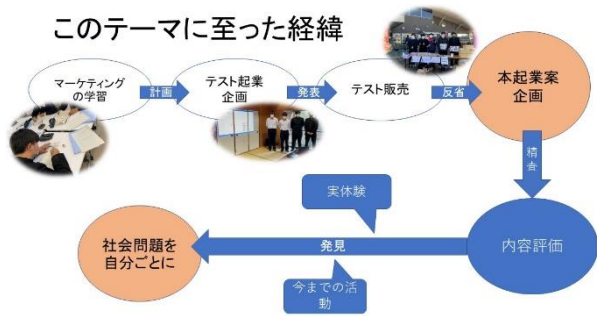
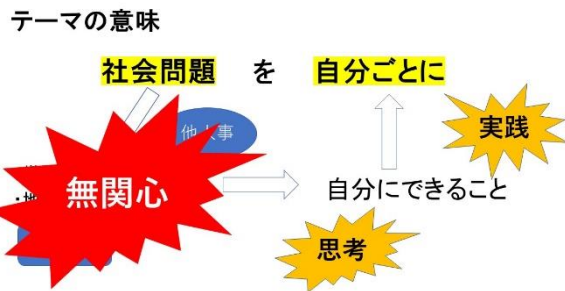
今年度の実践例 「社会課題を考える」

・1年次から様々なプロジェクト活動に関わってきた生徒たちが、社会課題を考え取り組んだことで変容したものの見方や考え方について研究したものである。リアルから学び主体的なプロジェクトに進めることで新科目にもつながる成果がでている。

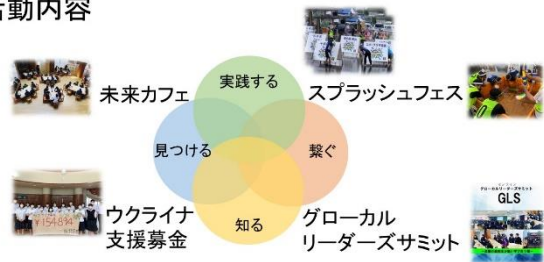


社会問題を自分ごとに

飯野高校3年 戸谷太河 的場悠真



活動内容



スプラッシュフェス



京町温泉は今...

観光ニーズの変化、設備の老朽化、自然災害などにより、一時は観光客が**3分の1**までに減少

近年では...



そこで

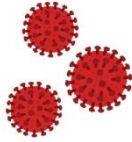
吉田・京町温泉郷をPRするためのイベントの開催をする

3年前に飯野高校の先輩方が



第1回スプラッシュフェス2019 の開催

しかし



第1回スプラッシュフェス2019開催後、
新型コロナウイルス発生



その後開催されず...



だから

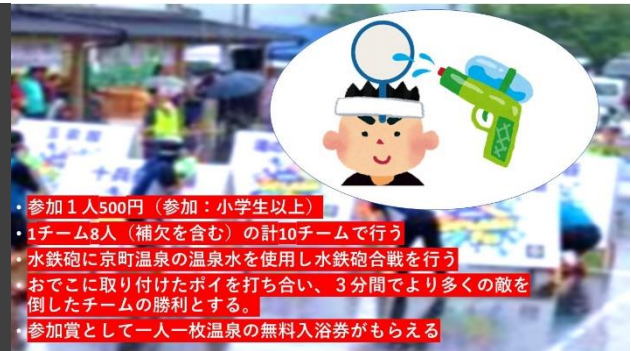
スプラッシュフェスを1から作り直し、進化させ

復活

第2回スプラッシュフェス2022
～ノカイドウの薔杯～



イベント概要



- ・参加1人500円（参加：小学生以上）
- ・1チーム8人（補欠を含む）の計10チームで行う
- ・水鉄砲に京町温泉の温泉水を使用し水鉄砲合戦を行う
- ・おでこに取り付けたホイを打ち合い、3分間でより多くの敵を倒したチームの勝利とする。
- ・参加賞として一人一枚温泉の無料入浴券がもらえる

活動の中で行ったこと

- ・協力団体との協議
- ・イベントの企画
- ・場所の確保
- ・予算の算出、確保
- ・後援、共産団体の依頼
- ・大会要項の作成
- ・イベントパンフレットの作成
- ・イベントポスターの作成
- ・大会賞状作成
- ・SNS、テレビ、新聞による情報発信の依頼
- ・テレビ出演

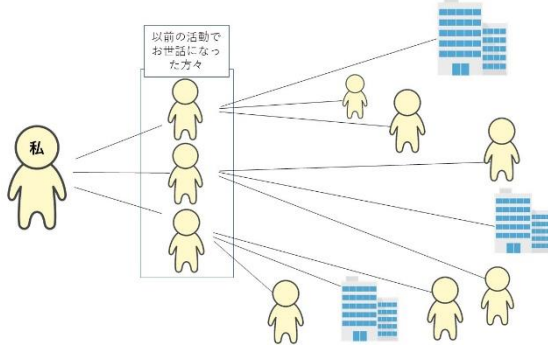


活動するにあたっての課題

高校生だけでは解決できない

- ・イベント開催に必要な知識
- ・会場、予算の確保
- ・情報発信方法
- ・第一回との差別化 など、

ノウハウを持っている人を連れてくる。



結果

10団体以上の団体
20人以上の支援をいただいた

協力団体

- ・宮崎日日新聞社
- ・UMK
- ・IAえびの市
- ・グリーンパークえびの（コカ・コーラ）
- ・京町観光ホテル
- ・えびの市役所
- ・アウトドアステーション
- ・えびの市観光協会
- ・えびの市教育委員会
- ・京町温泉旅館組合
- ・京町温泉みなほ会

8月

コロナ再流行

県「イベント中止にして」



学んだこと

社会問題を自分ごとに

- ・課題発見、解決力

スプラッシュフェス

- ・協調性
- ・リーダーシップ

②自分の枠を“越境”する学び

- ・学校や地域を越えて多くの人との対話や実践（※国内外とのオンラインを活用した対話）

→共創パートナー、他校の高校生、専門家などとの対話を随時設定

→自分の関心事を引き出す未知との出会いから問の種を見つける。

→校内に留まらず活動の場所は自由に設定

→課題を俯瞰して考える。

- ・文理の枠を超えた教科越境的な自由な学び

→答えが一つではない問から生徒が自由に学ぶ時間の設定

→上記を各教科の授業でも行い教科に捉われない考えを引き出す

- ・当たり前を越えるルールの設定

→探究の時間における生徒によるルールの設定

→校内や地域（社会）にあるルールについて考える時間、更新

- ・自分の場所を越えアウトプットする

→共創パートナー向けをはじめ、校内行事（授業）、各種コンテスト、地域行事、生徒企画など様々な場でプレゼンする機会の設定

→他者からの評価を得る

→プレゼン力を高める

今年度の実践例1 「グローバルプロジェクト」

インドネシアのバリ島にあるグリーンスクールでの研修で世界のごみ問題について学ぶ。そこから、SDGs 学習ともつなぎプラスチックゴミからアクセサリーの製作を行うワークショップを市内の小学生向けに開催している。また、全国高校生まちづくりサミットをはじめ全国高校生 SR サミット、全国高校生マイプロジェクト宮崎 summit で成果発表を行うなど越境した学びから地域につながる活動を展開している。これらは、プロジェクトの発信はもちろん、他校の取り組みを学ぶ機会にもなり、高校生サミットで特別賞を受賞した。



今年度の実践例2 「地域・国際医療×高校生」

地域医療を考える高校生の会のアップデートを測り、途上国の国際医療から地域医療について考えるプロジェクト。今年度は、中学生にも参加をよびかけ早期から医療における課題に触れる場づくりを行っている。



地域・国際医療×高校生

名前 上野 楓
岡邊 夏恋
柚木 沙有理

テーマ設定の理由

- ▶ 地域医療と国際医療を考える場を提供したい
- ▶ 地域医療と国際医療の課題を解決するために自分達にできることを考えたい

地域医療の課題	国際医療の課題
病床数が少ない	病床数が少ない (カンボジア)
専門医が居ない	診察できる医者が少ない (トーゴ共和国)
都市部と地域の医療の格差	都市部と地方の医療の格差 (パレスチナ)

課題には共通点がある!!!

研究活動

- ▶ 中高生で意見交換をする場づくり
- ▶ 地域医療の方と中高生が対談できる場づくり
- ▶ イベント後にアンケートの実施

研究仮説

医療の仕事に興味を持つ人
&
医療従事者になりたいという人
↓
増える

国際医療に関わりたいと思う人が増える

SDGsの3番目の「すべての人に健康と福祉を」という目標達成



実践

- ・ 7月23日に飯野高校でイベントを開催
- ・ 講師は、以前JICAに所属していた田代芽衣さん
- ・ 講話の後に、中高生でテーマについてトークをする

・地域医療を支える会の方と合計8回の打ち合わせ



イベントの流れや講師を田代さんにすることを決定



・募集するにあたって各中学校と高校にポスターを配布

・本校の校長先生と飯野中学校の校長先生にもイベントPRのためのプレゼンを実施



アンケート結果

アンケート内容
地域医療や国際医療に興味を持ちましたか？
医療職についてもっと調べたいと思いませんか？
このようなイベントがまたあったら参加したいと思いますか？

今後の展望

- ・将来、医療従事者が増える
- ・将来、えびの市や小林市の地域医療水準が高まる。
- ・SDGsの3番のゴール目標である「すべての人に健康と福祉を」という目標を達成

③“超探究の日”（1日探究×学期2回、夏季1週間）の実施

・本科目は通常は基本的に週2単位のカリキュラムとするが、探究による学びをより深いものにするため、すべての授業が共創探究の時間となる“超探究の日”として学期に2回、夏季休業前に1週間程度設定し、地域での実践などをより円滑に進められるようにする。

今年度の実践例 「吉都線活性化プロジェクト」

JR九州でワースト3の赤字路線であり、本校生の通学手段でもあるJR吉都線の活性化を図るプロジェクト。鉄道フリーアナウンサーの田代剛氏とも連携して超探究の日のモデルともなる1日かけて“おもてなしツアー”の企画・実践を行った。



④デザイン思考による実践教育により創造力を育成

- ・探究を進めていく手法としてデザイン思考を活用する。

気づき（問い、理解、観察、共感）→考える（アイデア、発想）

→実践/評価（具体化、製作）→伝える（プレゼン）のサイクルを回しながらプロジェクトをアップデートし、学びを深めていく。以下は、今年度の教育プロジェクトの例。



1 探究テーマ設定理由

飯野高校 3年 河村 中島 上野 榎田

◎子どもたちが自分からやりたいと思える環境を自分たちの手で作りたい

- ・子供たちが自主的に行動できる場所が少ない。
- ・「遊び」「学び」の分野から子どもたちの成長を支えたい。

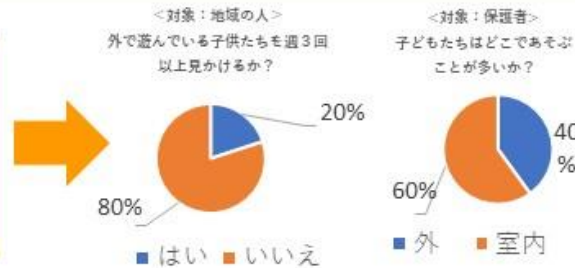
2 研究仮説

- ・子どもと大人が共に楽しめる環境を提供し、地域活性化に貢献できるのではないかと。
- ・子どもたちが楽しんで勉強に取り組むことによって、子どもたちの学力向上を図れるのではないかと。

3 調査活動

子どもたちのあそびの実態や遊ぶ環境が十分にあるかを知るためのアンケートを地域の人々(左)と保護者(右)を対象に実施

↳外に遊ぶ環境があまりないため、外であそぶ子どもたちが少ないのではないかとという仮説を立てた



プレーパークとは

私たちが遊び場や遊ぶものを提供し、子どもたちがルールに縛られることなく、自身の責任でそして、自由な発想で遊ぶことができる場のこと。今では触れ合うことの少なくなってしまった自然の中であそぶこともできる



4 実践

◎コロナ禍でプレーパークの開催ができなかった期間を活用し、プロジェクトを万全の状態にするためオンラインでマイプロ宮崎(1/30)GLS(2/12)探究成果発表会(3/5)でU-GAKUの発表を行った。

◎小中高一貫教育の一環で小学生の計算力向上のためのプリント作成に携わる

↳計算力をワンランク上げるために文章題の追加を提案⇒追加決定！

5 実践後の課題

- ・コロナウイルス対策
- ・活動資金
- ・熱中症対策
- ・どうやって人を呼び込むか
- ・協力していただける企業を探す
- ・自分たちの思いのこもった企画書づくり



6 成果と今後の展望

- ・発表に共感してくださる方がたくさんいた
- ・たくさんの人と交流することができた
- ・企画書作成と打ち合わせ
- ・校内ボランティアの募集

ついに・・・8/14(日)プレーパーク開催予定！！

⑤ ITスキルの育成

・探究を進める中での調査、分析、統計などを1人1台端末の環境をフルに活かし、日常的にPCを使う授業とする。また、ITスキルを持つ共創パートナーから学ぶ機会をつくる。

以下は、アンケートデータを活用した地域防災プロジェクトの例



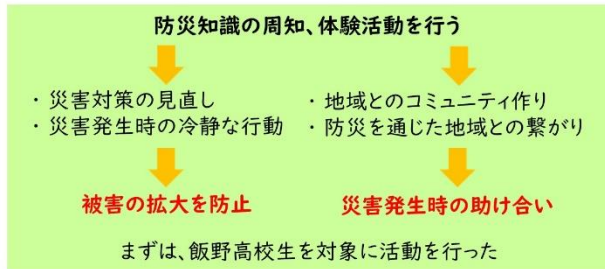
探究テーマ設定理由

- 〈きっかけ〉
 高校2年の6月に学校で「防災士」の募集
 ・ 建築の分野を学ぶ上で役立つのではないか
 ・ 生きていく上で役立つのではないか

↓
 防災士の資格取得を決意

- 〈目標〉
 ・ 防災についての知識を多くの人に伝える
 ・ 災害対策や災害時の行動の見直しのきっかけ作り

研究仮説



実践① 防災士の資格取得

2021年8月から2022年3月にかけて
 講義(2回)、普通救命講習を受講

↓

試験を受けて2022年5月に資格取得

実践② えびの市へのインタビュー

- 〈えびの市が実施している防災活動〉
 ・ 出前講座の実施 ・ 自主防災だよりの作成
 ・ 自主防災組織での避難訓練の実施

- 〈避難所で避難者に行ってほしいこと〉
 ・ 避難所運営 ・ 支援物資の配分

- 〈えびの市から高校生に伝えたいこと〉
 ・ 自分の命は自分で守る
 ・ 災害に応じた行動をとれる体制をつくる
 ・ 早めの情報収集を行う
 ・ 災害への備えをしっかりとしておく



実践③ 校内避難訓練での発表

〈事前アンケート結果①〉 飯野高校生・職員 132名が回答

印象に残っている災害

- 阪神淡路大震災
- えびの地震
- 東日本大震災
- 熊本地震

実践③ 校内避難訓練での発表

〈事前アンケート結果②〉 飯野高校生・職員 132名が回答

行っている災害対策

- 家具の固定
- 非常用持ち出し袋の準備
- 避難経路の確認
- 避難経路の確認(定期的確認)
- ハザードマップの確認
- ハザードマップの確認(定期的確認)
- 防災に関するニュースを見る
- 防災に関するニュースを見る(定期的確認)
- 防災アプリの確認
- 防災アプリの確認(定期的確認)
- 防災アプリのダウンロード

実践③ 校内避難訓練での発表

2022年11月22日に校内避難訓練で発表を行った

地震

○地震が発生したら…

- ① まず、身の安全を確認する
テーブルの下など物が落ちてこない、倒れてこない、移動してこない空間に身をよせる
- ② 揺れがおさまったら火の始末
- ③ 家族や同僚、隣人の安全確認
- ④ 出口の確認
- ⑤ 出先の情報を確認
おじいちゃんや防災アプリなどから正しい情報を取得する
- ⑥ 避難の準備
- ⑦ 避難が必要と判断したら避難

情報収集

○おすすめの防災アプリ

Yahoo!防災速報

防災情報
 震源地点に発表されている警報、注意報や避難情報、地震情報が見やすい。

防災5秒
 防災が一番大切な要領の備えから災害で構ったときに役に立つ情報が幅広く載っている(※) → 避難経路/入退室/ハザードマップ
 ・緊急連絡先 ・防災用品

実践③ 校内避難訓練での発表

〈事後アンケート結果〉 飯野高校生・職員 132名が回答



成果

- ・自らの防災意識の向上
- ・飯野高校生の防災意識の現状の把握
- ・飯野高校生の防災意識の向上

課題

- ・発信活動しか行えなかった
- ・事前アンケートで全員にアンケートを行うことができなかった

今後大学で取り組みたいこと

- ・これまで行ってきた防災知識の周知活動の継続
- ・地域の方々への聞き取り活動
- ・地域住民と大学生とのディスカッションの実施
- ・避難所体験を行う



活動を通して

- ・地域の方々、大学生等に防災に関心を持ってもらう
- ・自身の防災スキルを高め、建物の設計のヒントを得る

⑥学年が混在したプロジェクト活動の実施

・プロジェクトでは学年混在の活動を推進し「異なる見方」や「異なる考え方から学ぼうとする態度」を培う。

今年度の実践 → 1・2年生および南九州大学とのコラボ企画 教育プロジェクト



以上のように新科目に向けた実践を実施した。

その他、カリキュラム新科目グローバル共創探究のプログラムづくりの一環で以下の関係機関をはじめ企業と協議・意見交換を行った。

(4) 企業との意見交換・協議

○タイガーモブ株式会社

社会課題を学ぶプログラムについて意見交換および新科目にもつなげる海外研修 プログラムの構築について協議を行った。この中でインドネシア（バリ島）におけるグリーンスクールや環境問題について考えるプログラムを8月に実施し、本校からも3名の生徒が参加した。



○スタディバレー株式会社

宮崎県内の企業と連携した“ひなた探究”をすすめていることから意見交換や探究の取り組み方などについて協議を行った。このうち、新たな科目で探究活動を進める上でのポートフォリオツールはどのような形が有効なのか、本校に適した形について考える機会となった。

○合同会社レンケツ

新科目に向けて、どのような連携ができるか意見交換を行った。これまでも吉都線活性化プロジェクトで連携しているが、これを市内だけでなくどう波及させて行くか新たなプログラム作りについて協議を行った。

○クロスフィールズ株式会社

グローバルな視点での探究プログラムづくりの一環としてクロスフィールズ社の 共感VRを活用した授業の実践に向けて協議を行った。簡易VRを使い海外の社会課題について考えるプログラムを活用して、地域課題と接続して考える機会となるよう実践・検証も行った。

(5) 連携機関・団体との意見交換・協議

新たな新科目の中で新たなコンテンツを作成するためのヒントを得るため本校が連携、加盟している団体やグループとの意見交換および協議を行った。

- 1 新たな科目に向けて現在取り組んでいるプロジェクト活動をどのように深化させていくことが可能か
- 2 新たなコンテンツの作成に向けて協働できること
- 3 団体側への協力

以上、3つの観点から話をする中で、次年度、実践および検証を行い新科目のプログラム、もしくは1年時に履修する「えびの学」において導入できないか検討をしていくことになった。

- えびの青年会議所：えびの青年会議所のアップデート
- ALネットワーク会議：九州地区の加盟校による連携プログラム
- 地産地消くりえいていぶ：プログラミング講座
- 吉都線に観光列車を呼ぼう小林実行委員会：110周年記念に向けた事業
- さとのば大学：連携協定による大学の活用
- ヒカリテラス実行委員会：えびのヒカリテラスの高校生企画の実践
- えびの市観光商工課：志事図鑑の製作の事業化

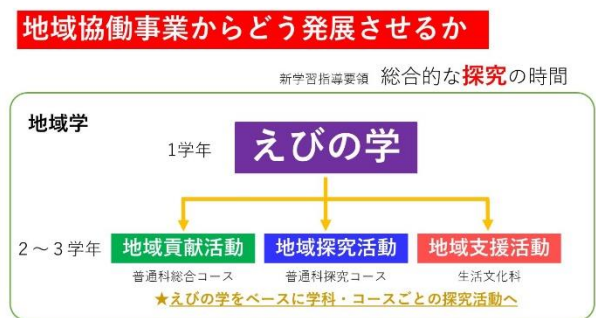
(6) 他の学びへの接続・学びの往還

また、新たな科目に向けたカリキュラム開発では、地域探究をより発展的に考えられるようグローバルな視点で取り組むワークや実践をどのように落とし込めばよいか、また小学校段階から取り組む「えびの学」についても改編作業が行われたため、どのように接続させるか研究をすすめてきた。

○カリキュラム内容の検討：えびの市学力向上研究委員会で高校で実践している探究活動につながる「えびの学」（小学校～高校）の改編作業

○プロジェクト実践における研究：吉都線活性化プロジェクト、志事図鑑作成、対話型教育プログラム「ひなた場」の実践、全国グローバルリーダーズサミットの実施など

下記は、研修会での事例発表スライド



小中高の教員でつくる「えびの学」

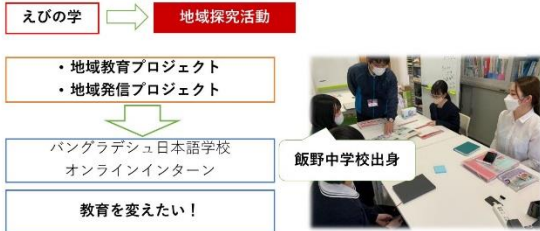


新たな「えびの学」 Think Globally. Act Locally

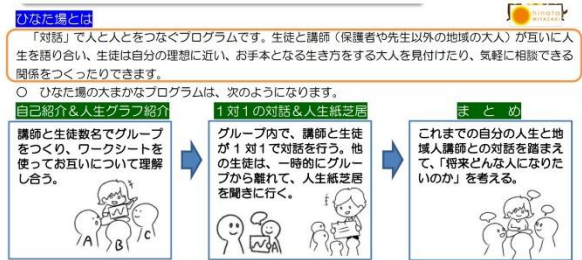


「地域を学ぶ」から「地域で学ぶ」へ

地域での探究をキャリアにつなげる



進路先：熊本大学文学部（グローバルリーダーコース）



出典：宮崎県教育研修センター

○「全力で」というワードがめっちゃ心に残っている。いろんな話を聞かせてくれて、いろんな考え方を教わったし、みんな自分と向き合っていて私も頑張ろうと思った。

○「とりあえずやってみる」の精神が大事とあって、やってからわかることがあるというのを教わった。飯野高校は自分が思っていたより良い学校で一人ひとりに手厚い指導してくれる学校だということがわかった。

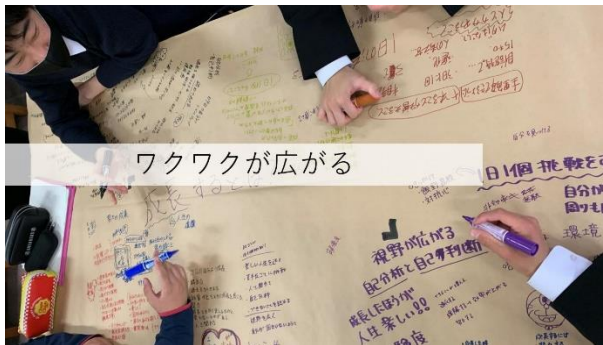
○物事を全力で楽しむと主人公になれる。自分らしさを持っていてすごいなと思った。すごく楽しかった。先輩の話や人生を聴いて楽しそうだなと思ったし、参考にしたいなと思った。

○このひなた場を行ってみて、自分以外の人の人生を聞くのはとても貴重で、自分が考えている選択肢以外に道は無数にあると思った。

○理想の自分とは遠くても全力で取り組むと楽しく過ごすことができる。「周りに合わせているだけじゃつまらない」と言う言葉を聞いて、私も周りに流されてしまうことが多いけど自分を強く思っでこれから生きていきたいと思った。

○ひなた場を通して自分の道について詳しく考えることができた。これからどうするかをしっかりと考えて頑張ろうと思うことができた。

○先輩たちは自分とはまた違う人生を歩んできていて、あまりそういう話を聞く機会がなかったので新鮮でした。飽きずに話とかを聞いて飯野高校生の話す力がすごいなと思った。



令和5年度の事業について

- 各教科における実践
 - ※アンケート結果を活用した探究的な学びの実践および探究活動との接続
- 新たな探究科目に向けたカリキュラム内容のブレ実施 ※超探究の日
- 地域貢献活動（普通科総合コース）
 - 地域支援活動（生活文化科）における探究的な学びの深化
- えびの学の見直し（※令和4年度からの継続）
- カリキュラムの刷新に向けた検討※

全国グローバルリーダーズサミット

本事業で実践共有をはじめ、他校で探究的な学びを実践している高校生や大人が一堂に会する全国グローバルリーダーズサミットを3年ぶりに対面で開催した。茨城県や京都府などからの参加もありより多様な学び合いを実践できた。またこのサミットは、すべて生徒実行委員会の企画・運営によるもので下記の感想にもあるが非常に充実したものとなった。

令和5年1月20日（金）～22日（日）

20日（金） 13:30~15:35 飯野高校グローバル学習成果発表会

21日（土） 9:30~10:00 オープニング

10:00~12:00 未来カフェ（参加者全体の対話）

13:10~15:10 プロジェクト発表

※4チーム×2教室

※発表15~20分+質疑10分/1回

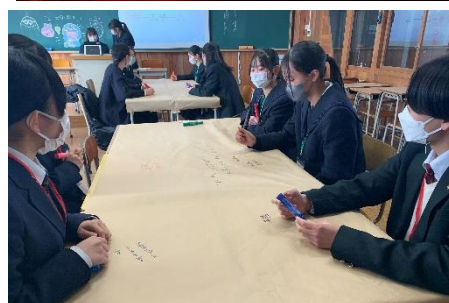
15:20~16:20 お悩み100連発

16:20~16:30 1日のふりかえり 2日目に向けて

22日（日） 8:40~10:30 市内フィールドワーク

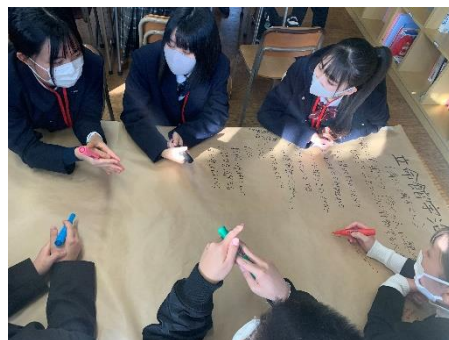
10:30~11:45 サミットの学びを対話

11:45~12:00 クロージング



参加者（所属校・団体）

宮崎商業高等学校 福岡雙葉高等学校 宮崎大宮高等学校 都城商業高等学校 茨城県立那珂湊高等学校 長崎県立松浦高等学校 立命館宇治高等学校 立命館守山高等学校 暁星国際高等学校 宮崎国際大学 えびの里山の会 一般社団法人熱中こばやし NPOらしく 宮崎県キャリア教育支援センター えびの市議会 菊池市役所 N-ジオチャレ 株式会社ライセンスアカデミー



協力・協賛

京町温泉組合旅館組合 えびのヒカリテラス実行委員会 えびの市国際交流センター



参加者アンケート

私たち N ジオが実行したサミットでは自分たちの地域のための活動をしている高校生が多かったけど、他の地域や国のために活動している高校生がいることも知れて驚きもあったしすごいなと思いました。実行委員のみんなが中心となって参加者を盛り上げてくれたので楽しかったし進行もスムーズで見習う点がたくさんありました。このサミットに参加出来て良かったです。

スケジュールの都合で2日目の午後からしか参加できませんでしたが、とても実りあるサミットになったようです。「初日から来たかった」という声も上がってます。僕たち伴走者も高校生の皆さんの事例発表や伴走者同士の交流を通じてこれからの活動につなげられる多くのことを学ぶことができました。

サミットでの学びは行動する事の大切さ、リアルでの空気感、そして教育の素晴らしさを改めて学びました。感想としてはサミット全体にパワーが溢れていたのですっといたい空間でした。未来カフェは永遠にやっていたかったです。参加された全ての方に感謝です。ありがとうございました。

進路を考えるときに茨城に住んでるから茨城の高校に進むとか近くの会社にするとかではなく自分のやりたいことのためにどんなことでもやり通す意志の強さが今後の進路選択のときに大事になっていくなと考えることができました

私自身、このような話し合いの場に参加することが初めてだったのでとても緊張しました。ですが、飯野高校生の皆さんが話しやすい雰囲気を作ってくださったり、各プログラムの準備が整っていたりと充実した2日間でした。また、プロジェクト発表ではどこからそのようなアイデアが浮かぶのかととても驚きました。全部において人間として必要な能力を身につけている学校だなと感じました。

金土のみの参加でしたが、とても楽しかったです。高校生の皆さんが主体的に動き、楽しんで取り組んでいることが感じられました。地域の人たちと直接関わり合うこと、自分の関心を起点にすること（でも決まっていなければまずは先輩に乗っかってみること）、とにかくアクションすることが学びを発展させるのだと感じました。また、高校生同士が関わって生まれる化学反応も感じられました。伴走する大人向けの事例発表&交流の時間もあって良かったです。本当にお疲れさまでした！

普段は出会うことのない素敵な人たちと一緒に、話し合いをして色々なアイデアを出していくことが本当に楽しかったし、とても多くの学びがありました。現状に満足せず、他県で目標に向かって行動している人たちのようにこれからも様々なことに挑戦していこうと思いました！今回は本当にありがとうございました！

このサミットのことは他の先生方から聞いていましたが、今回私自身参加することができ、多くのことを学ぶことができた2日間になりました。生徒もちろん良い学びになったと思いますが、私も今後の生徒との関わり方や、伝え方など色々な事を考え直す機会となりました。最終日は参加できない形となってしまう、色々のご迷惑をおかけしましたがこのような機会をつくってくださり本当にありがとうございました。お世話になりました。

色々な場所から色々なことをしている高校生の活動報告を聞いたり交流したりして、自分達とは違う規模で活動していたりテーマが世界に向いていたりしたけど、皆が皆熱意を持って各々の活動に取り組んでいて凄く刺激を貰えました。実行委員の皆様も場の雰囲気作りや進行がとても良くて見習いたい！と思ったし素直に凄いと思いました。是非もう一度どこか何度でも機会があるなら参加したいです。今回はありがとうございました。

どの団体も世界に目を向けて活動を行っていて、レベルの違いに圧倒されましたが、飯野高校の生徒さんから参考にさせてもらったと聞いて、私たちも負けていないんだなと思いました。これからもお互い頑張っていきましょう。今回はこのような素晴らしいイベントにお呼びしてもらいありがとうございます

このサミットは高校生が自分の行なったプロジェクトや考えるプロジェクトを発表することでお互いをインスパイヤできる良い機会になったと感じています。他校の方々の良さだけでなく普段、学校にいるだけでは分からない私たちの良さにも気づくことが出来ました。このような規模の大きい機会を主に生徒だけで開催していた飯野高校生にとっても感動しました。同時に同じ高校生にできるのであれば、私たちにも開催することは可能だと思います。このことから、まずは学年で未来カフェやお悩み100連発を私達主催で運営し、その次のステップとして様々な高校に立命館宇治に来てもらい高め合える場を作りたいと考えています。フィリピンに訪問、高校3年生で実施したいプロジェクトを考えている段階でこのグローバルサミットに参加し、他人からインスパイヤを受け成長した自分を感じることができ参加して良かったと心から思える出来事になりました。階でこのグローバルサミットに参加し、他人からインスパイヤを受け成長した自分を感じることができ参加して良かったと心から思える出来事になりました。

○ループブック評価の在り方について素案作成・検証

○外部団体との連携事業：えびの青年会議所フォーラム 探究合同発表会への参加

以上のように、新科目につながる実践研究を進めることができた。今後はよりカリキュラム内容に、目標とする力を育むだけでなく自己肯定感を高め、学びに向かう意欲と活動をさらに深めていく。また、客観的な評価や振り返りから自分自身を冷静かつ客観的に見ることが出来るメタ認知能力を高めること、高い目標に向かう姿勢を身につけること、自身のキャリアについても考えることにつながるなど複合的な効果が得られる科目としていきたい。

(7) 学びの往還に向けた調査・実践

新学科で身につけたい力については、新科目ではもちろん日常の授業などでも意識しながら学習活動ができないか、教員研修などで調査・実践を行った。その結果、すでに実践がなされていることもあることから次年度は各教科の授業や様々な教育活動においてより実践・研究を深めたいと考えている。

以下は、職員向けのアンケートから各教科などで新科目との接続を考えながら探究的な学びを実践案である。

①情報創造力

情報を集めて、分析し、戦略に合わせてコンテンツを編集・加工し、表現(デザイン)することができる力

使用するデータ/題材の選定と提供(教師)

- データ/題材の理解や分析 “何を学ぶか”事前に考える、想像する 仮説を立てて検証
- “どう学んでいくか”の検討、方針決定 何を学んだか”の発表、共有 (相手に伝わるように)
- 発表のための出力形式の検討(何のツールをどう使って発表するか)

1 数学	データの分析の授業内で、教師が与えたデータをもとに分析するのではなく、生徒が疑問に思った事柄のデータを用いて、分析する授業
1 数学, 情報	与えられたデータを元に、推定する力
1.数学	データの分析の単元において、都道府県ごとの人口増加率とその他のデータを比較して、相関係数や散布図を作成することによって、情報を整理し、分析し、新しい結論を導くような授業。実際に実施済み。
2 理科	一定の条件を満たしながら、実験計画を立てる
2 理科	実際に使われている技術について、類似する技術を収集して、分析、授業等で学習したものと比較し、原理をポスター等で説明
3 地歴	問いづくり。歴史総合では、単元のはじめに「問いづくり」があり、単元の学習の見通しをつけます。これからどんなことを学べるか。創造力を高める。
3 地歴, 公民	写真、資料等から読み取る力
3 地歴, 公民	共通テストの問題を生徒に分析させ、得点を高めるためには何が必要か、個人で考えさせる。
4 国語	調べ学習ができる授業すべて。文学作品や作者について調べるなど。
4 国語	授業で教える部分は基本部分の最低限にとどめ、その先を生徒に講義させる。生徒は情報を集めながら、物語や古典文学の背景を推察し、プレゼンを作り上げる。費やす時間に対しての効果が検証されるべき取り組みでもある。
5 外国語	授業で学んだ内容について、さらに各自が深く調べ、スライド等を作り発表する。
5 外国語	プレゼンテーションをする際に、プレゼンの仕方、スライドの作り方を指導していく。仮説を英語で立てた上で、リサーチにあたる。

5 外国語	教科書の単元の topic に関連した内容についての英語による発表
6 保健体育	その授業内容について発問し、インターネットやクラスメイトの知恵を使いながら自己の考えをまとめていく。
7 家庭	生活産業情報
7 家庭	生活産業情報 課題研究

②批判的思考力

公正な議論や意見表明の論理性を高めるための思考ができる力。

多様な考え方をする他者の意見に耳を傾け、議論や自分と他者の主張・論拠

それに関わるデータ(裏付け等)の正確性を高めていくための思考

授業に盛り込める形式

- 既存の知識の見直し、問いの再検討
- 資料や題材の分析
- 誤りの分析、その修正方法の検討
- 比較用資料(別視点)の提示
- 討論や読解活動等の中で、情報を鵜呑みにしないことの実践
- 自分の立場の表明、その適切な伝達
- 他者の意見や発表の傾聴、評価
- “解決方法”の再検討、多角的な観察
- 権威や立場にかかわらず客観的に捉える姿勢

1 数学	解法について、別の解法がないか、その説明で合っているのか、思考すること
1 数学	誤答例から、どこが誤答でどのように訂正すればよいか、思考をさせる問題
1 数学	誤答例や生徒の解答の共有から生徒に何が数学的におかしいかを考えさせる授業。
2 理科	グループ活動を行う
2 理科	知識として学習してきたこと、例えば地動説と天動説について知識として学習したことについて、なぜ地動説が正しいのか説明する
3 地歴	思考系の課題。「あなたは、〇〇で一番重要だと思うことは、その理由は？」など、単なる知識の理解だけではなく、それを活用することで「どの知識が必要か」を批判的に考えると思うからです。
3 地歴	歴史授業におけるテキストクリティーク。史料批判をさせる。
3 地歴, 公民	賛否両論の主張から自分の意思を表明する
3 地歴, 公民	教科書に記載された事柄について、メリット・デメリットを生徒に調べさせ、自分ならどの立場に立つか考えさせる。
4 国語	討論を入れることができる授業すべて。現代文や国語表現など。
4 国語	評論文や随想文で培える。筆者の意見に対して鵜呑みにするだけではなく、生徒自身がどう考えるかを大事にし、ディベート等表現活動に持ち込む。
5 外国語	いろいろな国の文化について調べさせ、常識や考え方を発表させる？
5 外国語	ディベートを行う。いろんな意見の書かれた記事を読んだ上で、自分の意見を形成し、お互いの意見をぶつけてみる。

5 外国語	英語での debate 国語科との連携が必要 英語に対するかなりの学習意欲と学力があればできる。
6 保健体育	社会問題や事象について、問いやなぜ？を立てさせ、原因や解決策について調べたり考えたりする活動
6 保健体育	他者や他グループの発表を評価する。

③問題解決力

問題の発見から解決策の提示までのプロセスを作成し、実行することができる力。

物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく

授業に盛り込める形式

- 主な解決策の提示(初期)、説明
- 短期/長期の目標設定とその達成に向けた準備
- 仮説、計画の作成と実践、検証
- 目的達成のために取り得る方略の決定
- 適切な助力の獲得方法の共有
- 生徒自身で考える時間の確保
- 生徒が主体となつての解決策の提案
- 自身の取り組みの振り返り、計画/方法修正

1 数学	初見の問題を見たときに、既習事項からゴール目標を考え、様々な方法でアプローチするための活動
1 数学, 情報	推定をもとに、仮説を立て、物事に取り組む力
1 数学	日常に近い状況から、数学の問題に落とし込み、問題を解決する授業。
2 理科	実験の失敗を経て、どうすべきか再検討する
2 理科	ニュートンの運動の法則を実感させるような活動。例えば、ミニ四駆のような単純なおもちゃなどを題材として「速く走らせるには」という目的のもと工夫・改善させる。
3 地歴	課題を解くときに、必要な人に相談する。わかるために行動する。
3 地歴	現代世界における諸課題について議論させる。なぜ、どうすれば、を考えさせる。
3 地歴, 公民	自らの調査で解決する
3 地歴, 公民	模試や考査にむけて、何を、どのように勉強するか、生徒自身に計画を立てさせ、教師が進捗状況を確認する。
4 国語	小論文作成時の時事ネタ調べ、新聞のコラム要約などで社会問題に対する分析と解決案を提示していく。。
4 国語	授業で教える部分は基本部分の最低限にとどめ、その先を生徒に講義させる。生徒は情報を集めながら、物語や古典文学の背景を推察し、プレゼンを作り上げる。費やす時間に対しての効果が検証されるべき取り組みでもある。
5 外国語	1週間に1回、または1ヶ月に一回、自分の英語力の振り返りを行う。なぜ成績が伸びないのかを考え、調べ、実行する。
5 外国語	教師が説明や答えを言う講義型の授業ではなく、生徒に考えさせる活動を取り入れ

	る。
5 外国語	教科書単元の topic について調べるだけでなく、自分の意見や問題解決を提示した形での発表
6 保健体育	目標とする課題を予め提示して、その目標達成までの過程を記録させたり、自ら調べて取り組むような学習。
7 家庭	検定をすることにより、自分で献立を考え合格できる基準にする
7 家庭	ホームプロジェクト
7 家庭	家庭総合によるホームプロジェクト 課題研究活動

④コミュニケーション力

いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、対話を通じて合意形成・課題解決することができる力。

授業に盛り込める形式

- 相手の立場/理解度を理解する姿勢 自分の考えを相手に“伝わるよう”に伝える
- 相手に納得してもらうよう伝える実践 グループ/異学年/異年齢活動などで交流する機会
- 対話の機会の確保とその継続 教え合い、学び合いの機会
- 質疑応答が適切にできる問いかけと答え方の指導 (英語) より多くの“英語話者”との交流

1 数学	自分の考え（解法）を人前で分かりやすく発表すること
1 数学	数学的に論理的に説明する。相手とのやり取りの中で、何が分かっていて、何が分かっていないのか分析する力を身に付ける。
2 理科	グループ活動を行う
2 理科	普段、いっしょに授業を受けない人たちと一緒に実験。他学年の生徒と一緒に実験。
3 地歴	課題を解くときに、必要な人に相談する。わかるために行動する。
3 地歴	発表、協議、討論など
3 地歴、公民	対話を通じて物事の解決に導く
3 地歴、公民	環境問題などについて、パワポなどでスライドを3枚ほど作成させ、1人3分で複数の人にプレゼンし、その後、3分質疑応答を行う、という一連の行動を繰り返す。
4 国語	現代文や国語表現における伝える力の養成。話し合いやジェスチャーゲームなど。
4 国語	ディベート等を行うことによって、必然的にコミュニケーションをとることになるが、相手を納得させる話法、思いを効果的に伝える話法を先に学ばせたい。
5 外国語	コミュニケーション英語の授業で語彙や表現をたくさん学び、発表し、相手に伝える練習をする。
5 外国語	ネイティブではない他国の外国語学習者と話す機会が欲しい。英語を話す抵抗感をなくせたらいいと思う。

5 外国語	教師と生徒および生徒同士の対話ができる活動を多く取り入れる。コミュニケーションに必要なポイントは教える。クラス外の人と話す機会を持てるのもよい（オンライン）。
5 外国語	英語によるペアでの small talk や質問ゲームなど
6 保健体育	チーム競技の際に、作戦タイムを設け、課題解決に向かわせたり、技能の高い生徒はリトルティーチャーとして生徒通しの教え合いや学び合いを進める。
6 保健体育	ペア学習、グループ学習
7 家庭	課題研究
7 家庭	課題研究における地域支援活動

⑤プロジェクト力

遂行すべき目的に向かい、他者と連携・協力しながらあらかじめ決められた資源と期間の中で計画を実施、達成することができる力。

授業に盛り込める形式

- 使用できる資源、ツールの確認
- 目標の共有、達成条件の確認
- 設定した期限内での目標達成
- グループ、個人の役割の理解、遂行
- 共通の目標に向けた主体的取り組み
- 自分たちでルールや決まりを作成その実践と検証
- グループでの調査、発表活動
- 地域活動を通じた企画、実行

1 数学	自ら問いを立て、探究する学習。
2 理科	実験計画を実行に移す
3 地歴, 公民	一定期間内に取り組み、終了する
3 地歴, 公民	Google スライドを複数人で共有し、教科書の内容に関して発表させる。
4 国語	共通テーマを設けた班別学習など。評論文で架空の会社再建計画のプレゼン作成など。
4 国語	授業で教える部分は基本部分の最低限にとどめ、その先を生徒に講義させる。生徒は情報を集めながら、物語や古典文学の背景を推察し、プレゼンを作り上げる。費やす時間に対する効果が検証されるべき取り組みでもある。
5 外国語	一つの単語や熟語が、どのような場面で使われているかをペアまたはグループで調べる。
6 保健体育	単元の終わりに習得した知識を基に生徒自身でルールや約束事を設定し、ゲームに臨ませる（体育）
7 家庭	地域支援活動を通して、企画をさせる
7 家庭	課題研究
7 家庭	課題研究における子育て支援活動

⑥ICT 活用力

情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくことができる力。

授業に盛り込める形式

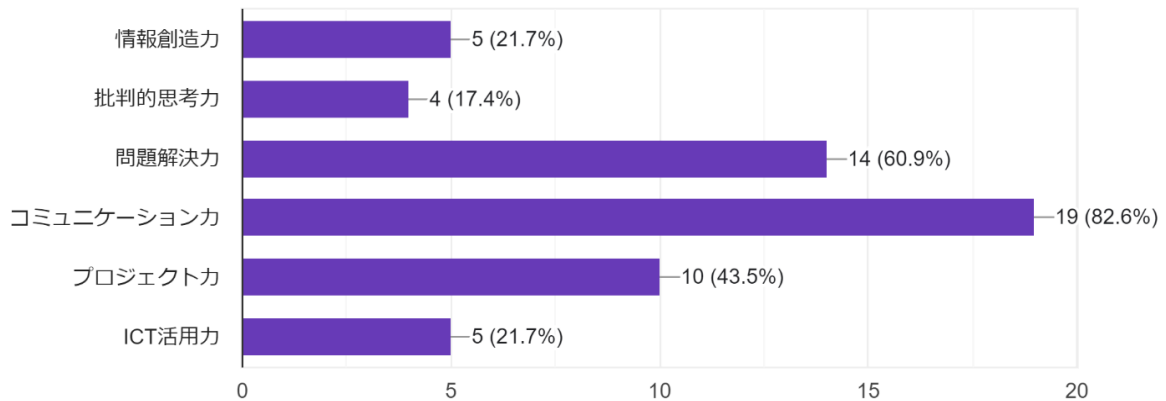
- データや資料の視覚化、提示
- 資料収集/選択やレポート作成、プレゼンなど発表ツールとしての活用
- “共有ツール”を利用することでの相互交流、到達状況の確認など
- 作文などデータで共有できるものをその場で共有、読み合いなどの活動利用
- クラスや学年、学校の枠を越えた交流活動への利用

1 数学	関数の問題など、グラフのアプリ等を活用して、パソコンに関数を入力することで、視覚的に考察すること
1 数学	データの分析の単元で、excel を用いて分析する方法を学ぶ
2 理科	情報収集や、データ整理、発表で使用する
2 理科	実験レポートの作成。
3 地歴	classroom の「質問」機能を使い、生徒が相互に解答を見ることができる。さらに、説明して納得できたらスタンプを押し合うことで、自己肯定感を高める。
3 地歴	資料活用や発表
3 地歴, 公民	多くの情報から取捨選択できる
3 地歴, 公民	Google スライドを複数人で共有する、共有ドライブで共同編集する、などの作業を授業をとおして生徒に行わせる。
4 国語	これについては何がどこまでできるか検討中。ICT のための授業でなく、国語のための ICT 活用としたい。
4 国語	グループで資料作成するための
5 外国語	英作文の授業などで、キーボードをできるだけ使って英文を早く、正確に書く練習をする？（わからないことを生徒と一緒に解決していく）
5 外国語	発表やリサーチの際に、ICT を活用させる。
5 外国語	ソフトを使って英作文したものを全員で共有し、その場で教員にコレクトされたものも全員で共有できる
6 保健体育	自分の調べた内容や知識を根拠を明らかにしながらプレゼンする活動
6 保健体育	スライドを用いた発表、調べたことをわかりやすくまとめる など
7 家庭	生活産業情報でさまざまなソフトを使う
7 家庭	生活産業情報
7 家庭	同じ学科に在籍する学校間の活動交流などすると生徒達にとっていい刺激になるのかも。

また、教科の授業以外での活動においても以下のことが出された。

部活動を通じたイノベーション力を培うために役立つようなスキル

23件の回答



[コミュニケーション力]

- ・団体戦のチームメイトやダブルspartnerとの戦略の共有やスムーズな意思疎通。
- ・他校との練習試合等
- ・地域での合同練習会等の企画・運営、小学校体育授業への特別講師、オンラインセミナー
- ・小中高連携や他校との活動交流
- ・先輩後輩、顧問、保護者、外部の人たちと関わることで礼儀作法や対人スキルが身につく。

[プロジェクト力]

- ・スケジュールを組む力は、培えるかと思います。**ただ、体育館の状況、練習相手の選定など、どこまで生徒に任せられるかが、よくわかりません。**
- ・計画実行力・・・生徒に練習内容や練習日を設定させ、実行させる。
- ・演奏会の内容の企画・運営
- ・個々でアイデアを出し合い協議しながら1つの作品を協働で作り上げる？など

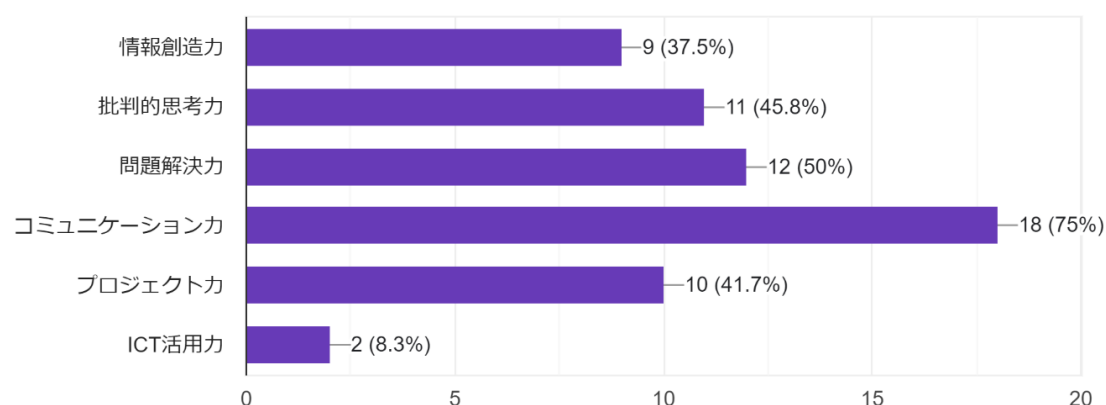
[問題解決能力, ICT]

①うまく行かなかったのはなぜか（仮説を立てる）⇒ ②調べる＋実行する ⇒③フィードバックを教員からもらう⇒ ④再び実行する

- ・動作解析
- ・練習→実践→反省のサイクルにより、生徒が主体的に課題を発見することができる ・PDCAサイクルを生徒自ら実践し、レベルアップをする。
- ・試合映像の編集・分析、サッカーノートのICT化
- ・生徒によるミーティング、ICTを活用したチーム・個人の分析
- ・自ら練習計画を立て、内容を組み立てていく力（プロジェクト力も絡む）

学級活動、クラス運営の中でイノベーション力を培うのに役立つようなスキル

24件の回答



[プロジェクト力]

- ・文化祭や体育祭などの学校行事の企画において、クリエイティブな提案が相互に生まれる。

[批判的思考]

- ・自分の表現したいことを深める、相手の意見を引き出すスキル方法 : ホワイトボード・ミーティング

[コミュニケーション力]

- ・ボランティア活動

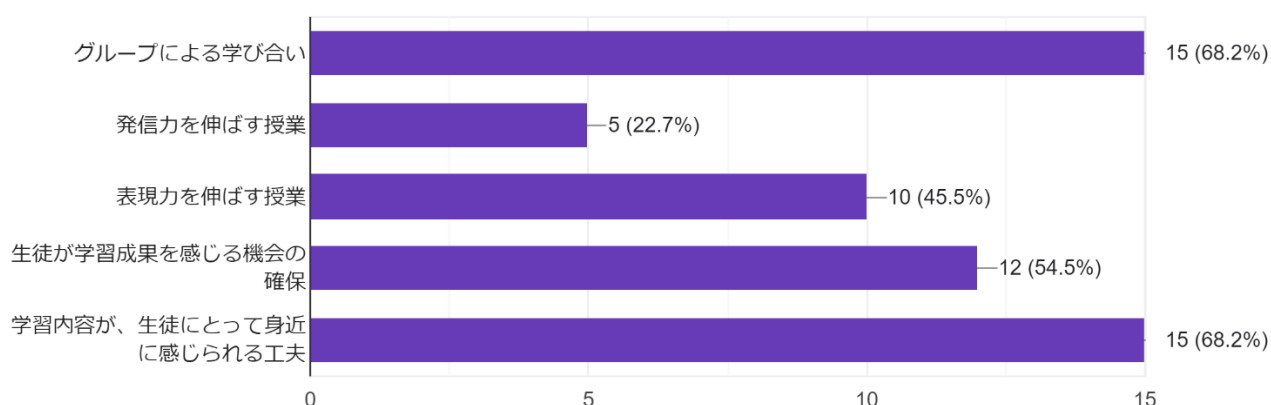
- ・情報提供、連絡手段

○ イベントの計画 (同観点の意見が多数ありました)

- ・学校行事やそれ以外での活動 (年中行事などの遊び) を考えさせ、可能な限り実行させてあげる。
- ・クラス裁量の LHR を、優先的にやらないといけないことがなければ、生徒自身に企画・運営させる。
- ・クラスの現状と課題について、自分たちで情報収集し、課題を見つけ、改善策を考えて、実行に移す、PDCA で実践してみる。ぼんやりとした学級会よりはグループ化してそれぞれで調査発表させると面白いかと思いました。
- ・委員長を中心に、LHR の企画を行う。ルールをどうしたら守れるようになるかをクラスで考えて実行し、振り返る。
- ・クラス会や学校行事の企画・運営、学級掲示

今現在、授業の中に取り込んでいるなという要素に☑を入れてください

22件の回答



コミュニケーション力” “問題解決”

おそらく他のスキルに比べて「イメージをある程度具体的に持っている」スキル

→ “情報創造”“批判的思考”“プロジェクト力”等について、アイデアの共有、活動への落とし込み、提案が行えるとより総合的な取り組みにつなげることができそう。

“ICT 活用”

授業では取り入れていても、**特別活動(クラス/部活)にはまだ浸透していない**

一方で利用の価値があると思っている先生方も多いように見える→ “やってみる”のが大切

授業に取り込めている要素

“生徒が伸びを感じる”“内容を身近に”という観点で工夫ができている先生方は多い。

科目特性にも依ると思うが、“**発信力**”“**表現力**”の部分で**まだ余地**がある

→ ICT 活用との連携を検討できるといいかもしれない

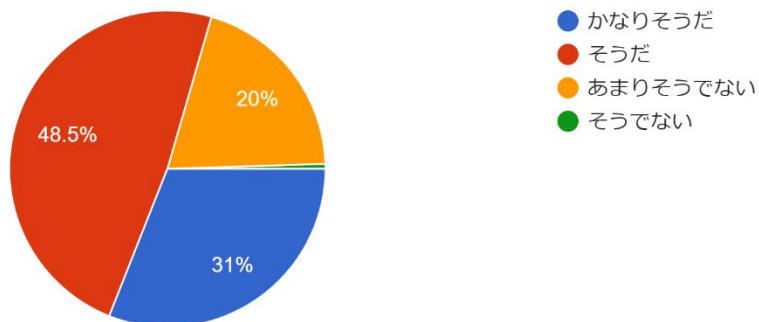
以上、カリキュラム開発においてはこれまで取り組めていなかった部分も考えながら新学科の新たな魅力・学びとして創っていき本校ならではの地域社会学科の価値づくりをできればと考えている。

3 生徒アンケート

今年度の取組みについて考えようと生徒向けにアンケート調査を実施した。
概要は以下の通りである。

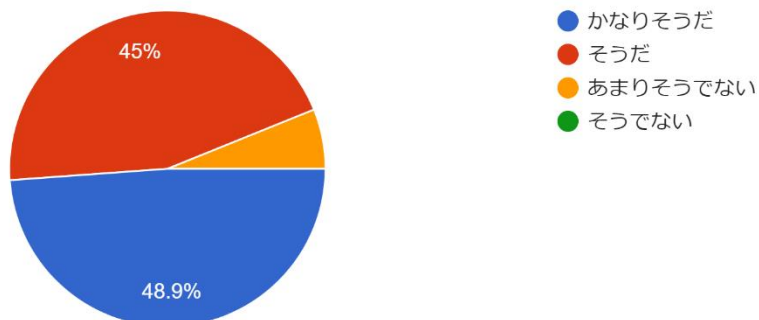
自分で調べ物をしたり、学校外の人に話を聞いたりすることをしてきた。

200 件の回答



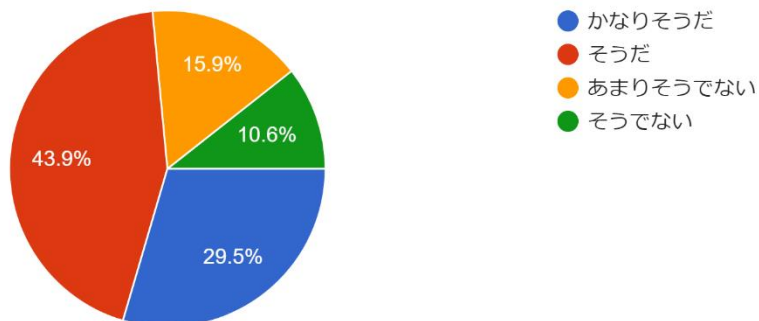
自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会があった

131 件の回答



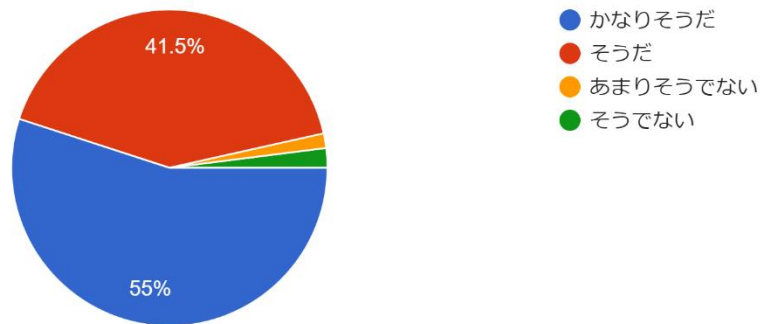
地域に、尊敬している・憧れている大人がいる

132 件の回答



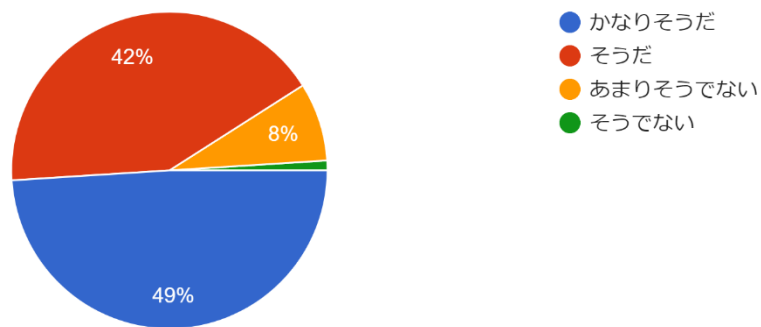
友人や授業のグループで協力しながら活動や学習を進めてきた。

200 件の回答



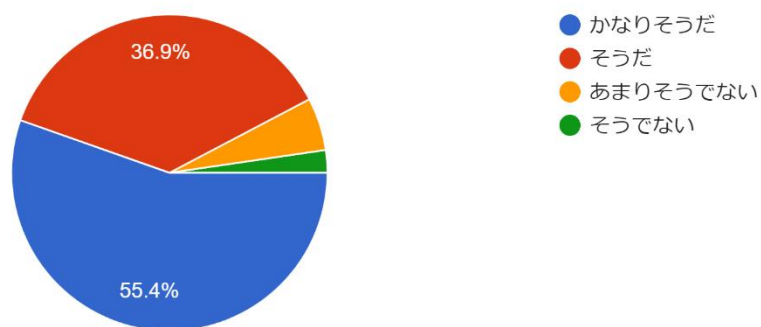
自分の考えをまとめたり、友人やグループとの振り返り、学習成果の発表をしてきた。

200 件の回答

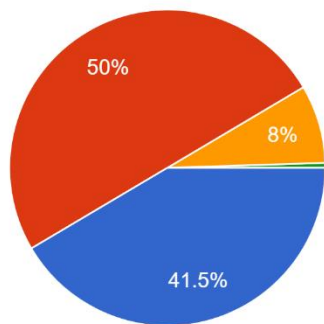


飯野高校で学んだことで、自分ができることやしたいことが増えている

130 件の回答

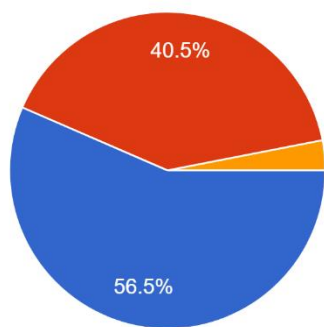


地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある
200 件の回答



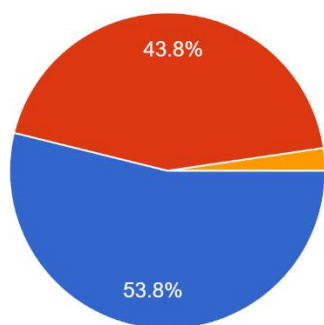
- かなりそうだ
- そうだ
- あまりそうでない
- そうでない

相手の意見を丁寧に聞くことができる
131 件の回答



- かなりそうだ
- そうだ
- あまりそうでない
- そうでない

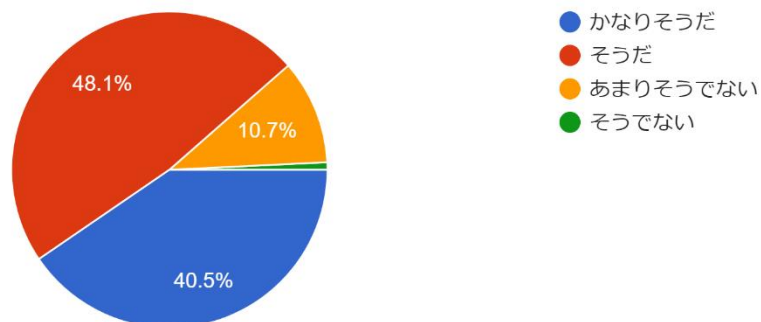
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる
130 件の回答



- かなりそうだ
- そうだ
- あまりそうでない
- そうでない

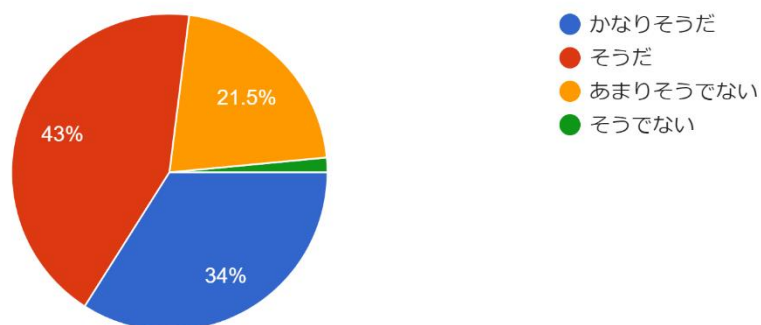
学んだことを実際に応用してみることができた

131 件の回答



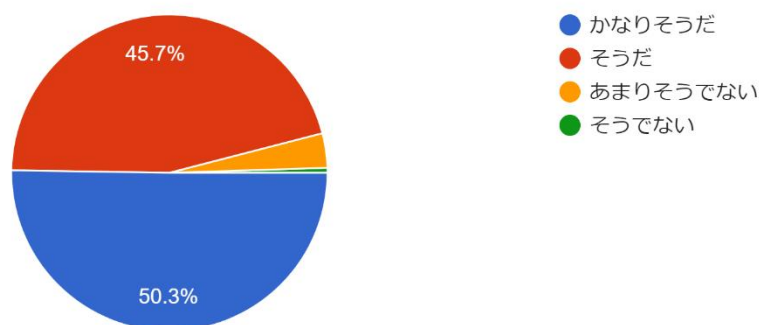
地域の資源や魅力、課題の解決方法、日本や世界の課題の解決方法について考えてきた。

200 件の回答



飯野高校で自分の目標とする進路実現ができた

199 件の回答



昨年度までの地域協働事業の成果もあり、本事業での取り組みにおいても生徒たちの学びがしっかりキャリアに結び付いていることがうかがえる。今後は新科目を柱に学びがより一層深まっていこう取り組んでいきたい。

4 視察・事業の普及

今年度は以下の学校、団体が本校の視察・研修に来校した。その際、現在取り組んでいる事業について研修を行っている。

大阪大学 兵庫教育大学院 福岡県立小倉商業高等学校 鹿児島県立霧島高等学校
北九州市立高等学校 内閣府 地域・教育魅力化プラットフォーム 長崎県立島原翔南高等学校
宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校 熊本県立岱志高等学校 鹿児島県立薩摩中央高等学校 鹿児島県
立古仁屋高等学校 佐賀県立神崎高等学校 佐賀県立唐津西高等学校 株式会社E D O
宮崎県立高鍋高等学校 宮崎県立本庄高等学校 宮崎県立都城商業高等学校 宮崎県立門川高等
学校 宮崎県立延岡高等学校

また、以下の高校などの研修会で本校の事例について話をする機会があり事業普及につながる機会を得た。

三重県立白山高等学校職員研修会 三重県立飯南高等学校職員研修会 中小企業同友会県北支
部研修会 北九州市立大学主催高校教員向け研修会 WWL研究会 別府大学 マイプロジェ
クト勉強会

次年度以降についても、本事業における知見を多くの高校などに拡げていけるよう取り組んでいきたい。